

談

三年 画数 15
オンドン 言詫談

三年



成の立ち

▽ ぼくのおじいちゃんは、講談や落語を聞くのが好きです。とくに、美談や、人情話などが大好きで、何度も聞いてもあきないようです。

熟語例

「火」二つと「言」を組み合わせて作った字です。

「火が次から次へともえうつるよう、話が次から次とうつる」ことを表した字です。**例談笑。**

また、「ある特定の事について話し合う」とのいみにつかわれます。**例相談、対談、談判。**

▽ 談笑（笑いながら気楽に次から次へと話しあうこと）
▽ 講談（武勇伝や政談などのものがたりを、調子をつけて語る芸）。また、そのものがたり）
▽ 史談（歴史上のものがたり）
▽ 美談（美しい、感動的なものがたり）
▽ 相談（あることについて、どうしたらいいか話し合うこと。「何をして遊ぶか、友だちと相談した」などといふうに、つかいます。）

▽ 対談（向かい合って話し合うこと。）
▽ 談判（あることの始末をつけるために話し合うこと。）
▽ 懇談（うちとけて話し合うこと。「先生と父母との懇談会が設けられた」などといふうに、つかいます。）

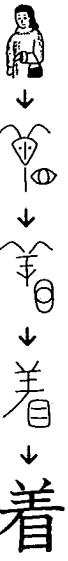
着

三年 画数 12
筆順 1. ナメ 2. ハタハタ 3. ハタハタ

オンドン チヤク・ジャク

クシ きりる||せる・つ||く||ける

成の立ち



▽ 『羊』と『目』とを組み合わせて作った字で、「羊の皮で作った着物が、よく人の目に『着く』こと」をあらわしたもの。『着物』といいみ、『着る』といいみ、また、「人の目に『着く』」といいみにつかわれます。

また、「着く」は、「行き着く」いみ、「心が落ち着く（沈着）」いみ、「手に着ける（着手）」いみなどにもつかわれます。

使い方

▽ 身に着ける物を着物といいます。体に着るから着物というのです。着物といえば、狭いみでは和服のことです。むかしは和服しか着ませんでしたからね。でも広いみでは、着物は、洋服もいいのです。着るものは、みな着物です。

▽ わたしは着せかえ人形をもっています。色々な服を着せかえてやるのは、とてもおもしろくて、すぎです。

▽ 到着（行き着くこと。目的地につくこと。「とうとう遊園地のある○○えきに到着した」などといふうに、つかいます。）

▽ 沈着（心が落ち着いていること。「沈着な行動で、火事から人をすくつた」などといふうに、つかいます。）

▽ 着手（手を着けること。なにか、しごとをやりはじめること。「新しいけんきゅうに着手した」などといふうに、つかいます。）

▽ 着目（目を着けること。目に着くこと。「コンピュータの新しい使い方に着目した結果、すばらしい効果があがつた」などといふうに、つかいます。）

「着は、『著』（年559）の字体が崩れたもので、羊と目との会意字ではないが、立派に会意字としても解ける。常用漢字では、チヨと読むのを著とし、チヤクと読むのを着とに分けているが、本来は勿論、その区別はない。」

「着は、『著』（年559）の字体が崩れたもので、羊と目との会意字ではないが、立派に会意字としても解ける。常用漢字では、チヨと読むのを著とし、チヤクと読むのを着とに分けているが、本来は勿論、その区別はない。」